多摩ニュータウンタイムズ
多摩中央新聞

発行所
多摩中央新聞社
東京都多摩町関戸1,308
購読料　1年　¥1,800
郵便　192－02
電話　0423（74）0569
振替　東京　104,829

近代化に面目一新

新装なる多摩の表玄関

多摩ニュータウンの表玄関として建設途上にあった京王線聖蹟桜ケ丘駅はこのほど新装成り業務を開始した。乗降客の増加と新都市開発に即応した近代的な明るい駅である。改良工事は京王線の長編化に備え、ホームの延長と直線化を図り、多摩ニュータウンの表玄関にふさわしい明るい新駅である。同線多摩川駅の改良工事に匹敵する大工事であったが、七六〇メートルの区間が高架化され、構内踏切ほか四か所の踏切が立体化され、同駅周辺の道路交通に新生面を与えている。ホームは幅六メートル、長さ一三九メートルで将来、周辺あわせて五〇万新都市住民の利用にも混雑がないよう広くなっており、北口、東口の両面からの出入も可能である。

軌道施設関係も、軌道中心間隔を三・八五メートルとし同社線でもっとも広く、レールも全区間五〇キロレールを使用、大型車輌の高速運転に備えてある。

パスターミナルも完成し、一日約四〇〇回の発着をそれぞれ十八系統に区分、電車の発着と直結されているので、利用者に重要な役割りを果すことになろう。

なお、旧駅および在来線の撤去跡、周辺地区を一括してショッピングセンター、ボーリング場の建設に着手、同駅高架下に店舗、駐車場など、同駅を中心として綜合的開発が進められている。

◇◇相原線の新設＝多摩ニュータウンと京王線を結ぶ相模線の建設も大きく前進しており、すでに起点である京王多摩川駅も高架駅が完成しており、多摩川鉄橋工事もほぼ竣工、この駅を起点として多摩川を渡り対岸の稲田堤付近で、国鉄南武線と立体交叉し、読売ランドの北端を西進してニュータウンの中心を東西に走り、さらに国鉄横浜線の橋本駅に接続し、津久井に至る二八、八キロの路線である。

◇◇新宿－調布間の複々線化と地下鉄一〇号線との連絡また同社線のうち新宿－調布間の複々線化もすでに着工され地下鉄一〇号線との相互乗り入れもちかづき都心との距離も身近なものになる。今回の一〇号線は新宿駅南口付近から花園町－四谷四丁目－小川町－須田町－岩本町と靖国通りにそい、さらに馬喰町－横山町－久松町－新大橋付近で隅田川をくぐり、深川森下町－毛利区への一一、六キロである。

途中で、国電山手線、営団四号線（丸ノ内線）、国電中央線、営団五号線（東西線）都営六号線、営団九号線、国電京浜東北線など都心の既設の路線と交叉して縦断するもので、これが完成のあかつきは、大東京を東西に走る幹線動脈として、時間的にもますます身近かなものになるであろう。

（高幡不動駅の改装）さきに、めじろ台団地の完成につづいて高尾山口までの新線延長の分岐点である高幡不動駅も、沿線人口の増加に伴い、列車の増発、乗降客の激増を来たし狭隘となり、ホームの延長などを考慮して同駅構内の地下道の新設に着手、また現在の木造ホーム上家を撤去し、鉄骨上屋となし、京王線西の基地として面目を一新すべく工事中であるが来年二月完成の予定である。

人口50万人に対処

聖蹟桜ケ丘駅綜合開発拠点に

事業計画の概要

南多摩新都市の開発

東京都南多摩新都市開発本部では同地域の区画整理について、建設大臣に認可申請中のところ、さる二月八日付で事業計画決定の公告がなされてすでに半歳。

事業計画決定に伴う手続等は次の如くである。

①所有権以外の権利の申告等＝事業計画決定の日（二月八日）より、土地について所有権以外の権利を有し未登記の者は東京都あて権利の申告をしなければならない。また、土地所有者でも届出を必要とする場合もある。これらの申告については事業施行中は随時申し出ができるが、ただ、借地権については土地区画整理審議会選挙のため三月十七日（予定）で一応申告の停止をする。従ってその期日までに申告しなければならない。なお、審議会選挙のため、住所氏名変更届、代表者選任通知相続届についても三月十七日までに施行者あて申しいでることとなっている。

これら種々の申告書等の用紙及び記載方法については同開発本部区画整理で取り扱っているが、今回の申告には次の場合が想定されるとのことである。

一、借地権申告二、借地権以外の申告三、所有権移転届四、住所氏名変更届五、代表者選任通知六、相続届。

②実測確認申請＝登記地積と実際地積とに差がある場合は、事業計画の決定公告から六十日以内に実測確認申請を提出すること、この申請の締切りは四十四年四月八日まで。この申請がないと原則として登記地積によって換地や清算金額を定めることになっている

③区画整理実施中の制限＝

一、建築行為、その他の制限＝この事業計画の施行地区内では自分の土地であっても建築や工事等を自分勝手にすると、せっかくの家を建ててもその地点が道路であったり他の人の換地になる場所であったりすると移転しなくてはならず無駄な費用や労力をかけたことになる。次の場合は都知事の許可が必要である。

一、建築物の新築、改築、増築等

二、土盛り等土地の形質の変更等なお、土地等の売買については区画整理が実施されていても土地や建物の売買、譲渡、権利の設定等は特別の制限はうけないが、換地とか清算金等の問題が生じる建物については、区画整理により移転が生じるので売買の場合は事業施行当局に問合わせる必要がある

多摩町の災害状況

昭和43年

（一）交通事故による死者は、昨年全国で一万四千二百五十六人という〝交通戦争〟史上最悪の記録を出すに至った。自然の楽園であるわれらが多摩町もニュータウンの建設とレジャー客の殺到とで往復する車の台数も日を追って頻繁となり、川崎街道、鎌倉街道、八王子街道それぞれ交通の難所となりつつある現状であるが、昨年中の多摩消防署の災害出動を分類してみると次の通りである。

交通事故	七三件
自損〃	六件
労災〃	八件
一般負傷	二二件
犯罪出動	九件
急病〃	一三〇件
その他	二件

以上のように交通事故による緊急出動も前年度の比ではない。

運転者も歩行者も交通法規と交通道徳を厳守して交通事故のない明るい多摩町を作らなければならない。とくに隣接する観光地へ行く通過地点でもあるこの町は、道路標識も少いし且又歩、車道の区別さえない公道が多い、外来者に運転上の注意を与えるためにも交通事故防止のための施設を整備することは急務である。

（二）めまぐるしい発展途上にあるため人口の増加は必然的に火災発生もふやしている。主たる種別は次の如くである。

たばこ	六件
たき火	五件
かまど	三件
電気関係	三件
ガスコンロ	二件
エンジン部	二件
放火の疑い	一件

となっているが、煙草の吸殻に注意し、就寝前の火の元を確める等消化栓も又町民こぞってだいじにすべきである。（多摩町消防署）

東京の郷土玩具

猿まね、猿知恵、猿芝居など、猿の名前は昔からとかく悪いことに多く使われているが、さがしてみれば縁起のよい場合もあるもの柴又の帝釈天（たいしやくてん）にある、悪事災難をはじき去り、好運をはじき出すという「はじき猿」。

この柴又帝釈天は、日蓮宗の経栄山題経寺というのが正式な名前しかし、一般には帝釈さまの名で親しまれ、仏法守護の神として、庚申信仰とも結びついたうえ、多くの参拝人でにぎわっている。

〈筆〉〈舌〉

人間はどこを歩く

傍若無人に突っ走る無謀なダンプ。我が物顔に得意気に疾走する一般乗用者。われらが住む多摩町の道路は安心して歩けない。

とくに、川崎街道・鎌倉街道はひどい。ニュータウンの建設というときならぬ掛声にこれら欠陥人間の操縦する車が、いっ家にとびこんでくるか、いつ轢き殺されるかと、心を許しては歩けないのが現状である。

川崎街道も鎌倉街道も立派な都道である。だが、人道はない。

下水にフタをして、道路いっぱいにガードレールがあり人間は下水のフタの上を歩けというのである。それも、数ケ所である。

その数ケ所の下水のフタでさえ心なきダンプ運転者が乗りあげて毀わしたら、幾日を経てもそのまま放置してあるしかも横断歩道の白線の前であり、バスの停留所近くであり、小学生も朝に晩に通る通学路である。

交通安全のかけ声は、どこ吹く風かと、うそぶいているような寒心に耐えない横断歩道である。

九月中旬にも連光寺の川崎街道で、多摩一小の少女が、ひき逃げダンプの無謀運転により、幼い、尊い一命が犠牲にされた。

この地点も早くから、ガードレールを直して呉れと地元住民から交通安全の指導者たる当局に嘆願書が提出されていたそうである。

人命の危険を無視したまま放置され、この悲しむべき結果を招来したのは厳然たる事実である。

川崎街道と鎌倉街道は人間は安心して歩けない。これから、ニュータウンの建設進展に併行して、ますます車の数量、横行は頻繁になり、今まで静かで、良き環境にあったこの地域の住民は、いや応なく交通地獄の渦中にまき込まれることになる。

要するに、少女を犠牲にした地点のガードレールは、車輌の転落防止のための施設であって、歩行者を守る、真の意味の安全施設ではなかったそうである。

漢和大辞典に曰く。

道路とは、人馬の通行するみち、とある。現代では馬を車におきかえて通用する語句であろう。

多摩中央新聞創刊に当り

一国文化の興隆はその国の政治にあり、近時、我が国における産業の発展は実に目覚ましく、うたた今昔の感にたえない。

さて、多摩地域は首都圏大東京に含まれる西方に位置し、今やその中心として世界最大の新住宅都市「多摩ニュータウン」の建設という脚光を浴び意義ある開発途上にある。

木社はこの趨勢に鑑み、多摩住民の新聞という構想のもとに、有識具眼の士の共感と支援とを得て

明るく住みよい多摩町を

「多摩中央新聞」を発行し、治生産業の公正なる報道をなし、推進開花、結実しめ、せもって、「大多摩」の光栄ある展開の一端に資せんことを念願する。

われわれ人類は、明日の発展のために今日の現状を認識しなければならない。地域社会の声を地域住民に伝えることは、小さな力ではあるが意義あるものとされようゆづればよい。従って、われらが住む多摩町に関する記事は深く細かく解説したい。つまり地域社会の出来事は包括的に位置づけ、掘り下げを行なっていきたい。

その意味で、「多摩中央新聞」は住民の心を結ぶパイプとして、読者の日常生活について、身近な報道を、誠実に、有用ある、そして愛情をもって編集する方針である。

どうんのとうりの小紙ではあるが愛読をたまわりたいものである。（海雲天涯）

八東建設株式会社
代表取締役　菊地　義行
調布市国領町三ノ九ノ三
電話　〇四二四、八二、五一二七

京王帝都電鉄株式会社
東京都新宿区新宿 3－48　TEL 356－3111（代表）